

第9回アフリカ開発会議に向けた取組状況について

来年8月20日（水）から22日（金）に開催される第9回アフリカ開発会議（TICAD9）に向けた取組について、横浜市としての「取組の方向性の柱」として掲げている項目ごとに御報告します。

【取組の方向性の柱】

- 1 TICAD9 開催を通じた「選ばれる都市・横浜」の世界への発信
 - （1）GX・脱炭素分野における国際的な認知度向上
 - （2）ビジネス機会の創出・拡大
 - （3）国際協力の一層の推進
 - （4）世界で活躍できる次世代の育成及び誰もが暮らしやすい社会の実現
- 2 会議成功に向けたホストシティとしての貢献

1 TICAD9 開催を通じた「選ばれる都市・横浜」の世界への発信

（1）GX・脱炭素分野における国際的な認知度向上

8月のTICAD 閣僚会合を始めとするTICAD 関係者による会合や、アフリカ各国大使との面会の場において、横浜市の脱炭素分野の取組やGREEN×EXPO 2027などをPRしました。



TICAD 閣僚会合

在京アフリカ外交団（ADC）月例会

（2）ビジネス機会の創出・拡大

日本貿易振興機構（JETRO）や在日アフリカ人ネットワーク（ADNJ）等と連携し、市内企業等に向けてアフリカのビジネス情報を発信しました。10月の第13回アジア・スマートシティ会議（ASCC）では、アフリカビジネスセッションを開催したほか、アフリカ各国の企業と市内企業との対面でのネットワーキングを実施しました。



ADNJ 主催ビジネスセミナー

ASCC における
アフリカビジネスセッション

（3）国際協力の一層の推進

「廃棄物管理」や「水道」、「港湾」などの分野における技術協力を継続し、今年度は11月末までにアフリカ各国から延べ52人の研修員を受け入れているほか、水道分野では引き続きマラウイへの職員派遣を行いました。



廃棄物管理
収集事務所の視察



水道
マラウイでの現地活動



港湾
大さん橋での研修受入れ

(4) 世界で活躍できる次世代の育成及び誰もが暮らしやすい社会の実現

小中学校とアフリカとの交流を引き続き実施しています。また、中学校給食では、アフリカメニューを2回実施し、「給食だより」にアフリカメニューにちなんだ記事を掲載しました。

さらに、高校生や大学生にも取組を拡大し、延べ6校で講演、交流事業を実施しました。11月30日からは大学生等を対象とした「学生プロジェクト」をスタートさせ、市内外から100人を超える応募がありました。



上山小学校×ナミビア



横浜商業高校でのアフリカ授業



「学生プロジェクト」キックオフセミナー

2 会議成功に向けたホストシティとしての貢献

安全で円滑な会議運営を支援するため、神奈川県警をはじめとする関係者との協議・調整を進めています。

8月のTICAD閣僚会合では山中市長が登壇し、アフリカ各国の閣僚等に向けてホストシティとして歓迎の意を表すとともに、本市とアフリカとの絆をPRしました。

また、市民の皆さまにアフリカやTICADに関心を持っていただけるよう、8月に開設した「横浜市TICAD9特設ウェブサイト」や、各種国際会議、イベント等でのブース出展などをおとして機運醸成に取り組んでいます。



「TICAD 閣僚会合」でのPRブース



国際イベントでのPRブース



市民向けイベントでの
アフリカ音楽ステージ

第9回アフリカ開発会議（TICAD9）ロゴマーク

外務省による公募の結果、市内の専門学生の作品が選定され、8月開催のTICAD閣僚会合において、外務大臣から発表されました。



TICAD9 ロゴマーク

別添あり

第9回 アフリカ開発会議 (TICAD9) 横浜開催
2025年8月20日(水)～22日(金)

TICAD 9
YOKOHAMA
2025



これまで築いてきたアフリカとの絆を継続し
TICAD9の成功に貢献してまいります

脈々と築き上げてきた友情の絆



**国境を、言葉を超えて
つながる 子どもたち**

アフリカとの友情の発展・継承と
国際人材の育成に貢献

共に発展・成長を続けるパートナー



**都市課題の解決と
SDGs達成に向けて**

水道、廃棄物、港湾分野等での技術協力や
女性の社会進出に貢献



TICADを契機とした横浜の主な取組

横浜は、TICAD開催をきっかけにアフリカに関する様々な取組を進めてきました。これからも、これらの取組をさらに発展させていきます。

◆次世代育成

TICADIV開催を契機にアフリカと小中学校との交流を深めています。

交流学習の実施校数は15年間で延べ**200校**以上 アフリカの**34か国**と交流

◆都市課題解決に貢献する研修実績

水道、廃棄物、港湾分野等におけるアフリカ各国への技術協力など多くの視察・研修生の受入れを実施。

アフリカからの視察・研修受入れ人数**1,400人**以上

◆経済成長と女性活躍社会を目指して

横浜経済の長期的な成長を目指し、市内企業向けのアフリカビジネスセミナーを開催しています。また、TICADVをきっかけにアフリカ各国の女性起業家及び関係政府職員をJICAの研修員として受け入れ、横浜の女性起業家や行政職員等との交流や意見交換を行っています。

TICAD9開催を通じて グローバルMICE都市横浜の魅力を発信

グローバルMICE都市としての高い会議開催支援能力や、持続可能なグリーン社会実現に向けた取組を世界に向けて発信します。

TICADとは

Tokyo International Conference on African Development(アフリカ開発会議)の略で、アフリカの開発をテーマとする国際会議です。1993年以降、日本政府が主導し、国連、国連開発計画(UNDP)、世界銀行及びアフリカ連合委員会(AUC)と共同で、これまでに8回開催しています。横浜は、これまで3回※開催地となりました。

※2008年第4回、2013年第5回、2019年第7回

<TICAD7横浜開催時>

■ 横浜市内への経済波及効果:約27億6,900万円 ■ パブリシティ効果:155億円



横浜市TICAD9
特設ウェブサイト

2024年10月発行

横浜市国際局グローバルネットワーク推進課
アフリカ開発会議担当

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10

Tel: 045-671-2068 Fax: 045-664-7145



GX・脱炭素分野における国際的な認知度の向上

TICAD9 の開催を通して、グローバル MICE 都市としての競争力強化と魅力向上、アフリカとのビジネスを含めた連携強化による市内経済の活性化につなげていきます。また、脱炭素への構造転換を見据えた「グリーン成長」が TICAD においても重要な論点であることを踏まえ、TICAD を通じ、横浜の脱炭素やグリーンの取組を世界にアピールするとともに、環境との共生をテーマとした GREEN×EXPO 2027 の成功とその先の脱炭素社会の実現につなげます。

絵が繋ぐ友好関係：横浜とボツワナの交流事業「都筑・ボツワナ交流児童画展」

TICAD IV をきっかけに、2014 年から横浜市立茅ヶ崎小学校（都筑区）とボツワナ共和国ベン・テマ小学校の 3 年生が自分たちの生活の様子を描いた絵を送り合う文化交流をしています。2023 年度には、10 周年を記念してアニバーサリーセレモニーやオンライン交流を実施し、事業の流れがわかる動画を作成しました。これまでの功績により、つづき MY プラザとベン・テマ小学校が関係者を代表して 2024 年度外務大臣表彰を受賞しました。



オンライン交流の様子



都筑・ボツワナ交流
児童画展 10 周年記念動画

野口英世アフリカ賞と横浜市のつながり

野口英世アフリカ賞は、野口英世博士の志を引き継ぎ、アフリカのための医学研究・医療活動それぞれの分野において顕著な功績を挙げた方々を顕彰し、アフリカに住む人々、ひいては人類全体の保健と福祉の向上を図ることを目的とする賞です。横浜市金沢区にある「横浜市長浜ホール」には、野口博士が勤務された当時の面影を残す「旧細菌検査室」が保存されています。2023 年 3 月には、「第 4 回野口英世アフリカ賞」の受賞者が来訪され、同施設を視察されました。同ホールの記念碑には、これまでの受賞者名を刻んだネームプレートが展示されています。

第 5 回野口英世アフリカ賞は、TICAD9 の際に授与される予定です。



横浜市長浜ホール



野口英世アフリカ賞ホームページ

日本アフリカ友好横浜市会議員連盟の活動

超党派の横浜市会議員で構成される「日本アフリカ友好横浜市会議員連盟」（会長：佐藤祐文 横浜市会議員）は、2015 年の設立以降、アフリカ諸国への訪問、駐日大使等との意見交換、講演会の開催、若い世代の国際理解推進等、国内外の様々なパートナーとともに、アフリカとの交流促進・友好関係の構築に取り組んでいます。



コートジボワールでの
小学校訪問の様子（2018 年 4 月）



在京アフリカ外交団との
親善サッカー試合の様子（2018 年 5 月）

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER
YOKOHAMA



© Yokohama Visitors Guide



2024 年 8 月発行
横浜市国際局グローバルネットワーク推進課
〒231-0005 横浜市中区本町 6-50-10
TEL: 045-671-2068 FAX: 045-664-7145
E-MAIL: ki-ticad@city.yokohama.lg.jp

 **TICAD 9**
YOKOHAMA 2025



© Yokohama Visitors Guide

© 三溪園

Yokohama and Africa 横浜とアフリカ



横浜とアフリカとの交流

横浜市は持続可能な開発目標（SDGs）の理念等を踏まえ、「選ばれる国際都市・横浜」を目指しています。アフリカとの関係においては、第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）を契機にアフリカ各国と友好的な交流を進めてきました。また、横浜の都市課題解決の経験や技術を各国と共有し、アフリカにおける質の高い都市開発や成長に協力しています。

2025 年の 第9回アフリカ開発会議（TICAD9）に向けて、取組をさらに充実させ、アフリカとの交流・協力を一層強化していくとともに、次世代育成、市内経済の活性化、選ばれる国際都市・横浜のプレゼンスの向上にもつなげてまいります。

過去3回の TICAD 横浜開催の成果

アフリカ開発会議（TICAD）と横浜開催について

アフリカ開発会議（Tokyo International Conference on African Development：略称 TICAD）は、アフリカの開発をテーマとする国際会議で、1993 年以降、日本政府が主導し、国連や国連開発計画（UNDP）、世界銀行、アフリカ連合委員会（AUC）と共同で開催され、アフリカ各国の首脳級をはじめとする要人や関係者が参加しています。横浜開催は、2008 年の第4回、2013 年の第5回、2019 年の第7回を経て、2025 年8月20日～8月22日に開催される第9回アフリカ開発会議（TICAD9）で4回目となります。ホストシティとして、市民・企業の皆様とともに、会議に参加される方々を温かくお迎えし、安全で円滑な会議運営に貢献するとともに、アフリカとの交流を深め、「アフリカに一番近い都市」として、アフリカとの交流・協力を重ねてきました。



横浜市 TICAD9 特設ウェブサイト

開催概要及び経済波及効果（※）

■第4回会議（TICAD IV）
日 時：2008年5月28日～30日
参加者：アフリカ51か国の代表他3,000名以上
横浜への経済波及効果：15億7千万円



提供：外務省

※ 観光庁が公開する「MICE開催による経済波及効果測定のための簡易測定モデル（MICE簡易測定モデル）」による

■第5回会議（TICAD V）
日 時：2013年6月1日～3日
参加者：アフリカ51か国の代表他4,500名以上
横浜への経済波及効果：21億5千万円



提供：外務省

■第7回会議（TICAD 7）
日 時：2019年8月28日～30日
参加者：アフリカ53か国の代表他10,000名以上
我が国が主催する最大規模の国際会議に。
横浜への経済波及効果：27億7千万円



提供：外務省

世界で活躍できる次世代の育成及び誰もが暮らしやすい社会の実現

TICAD IVを契機に、横浜の小中学校とアフリカとの交流が始まり、TICADV、TICAD7の開催を経て、交流の輪が拡大し、これまで交流を行った小中学校は、延べ200校以上となりました。今後も、アフリカとの友情の発展・継承と国際人材の育成に貢献していきます。



JICA 青年海外協力隊経験者がエジプトを紹介（小菅ケ谷小学校）（2023年6月）

また、2023 年度より、中学校給食にアフリカメニューを採用するなど、生徒がアフリカを身近に感じ、国際理解を深めるきっかけとなるような取組も行っています。



中学校給食にケニアの家庭料理が登場（2024年5月）

ビジネス機会の創出・拡大

ビジネスセミナーの開催

JETRO 等と連携して開催する「アフリカビジネスセミナー」では、アフリカのビジネス環境や、市内企業のアフリカへの進出事例などを紹介しています。



市内でのセミナーの様子（2024年5月）

アフリカにおける女性のビジネス・起業の推進

2013 年の TICADV をきっかけに、毎年アフリカ各国からビジネスウーマンと関係政府職員を JICA の研修員として受け入れ、女性の起業支援に関するセミナーや、市内施設の視察受入れを行っています。2023 年度までに 29 か国 140 名以上が参加しています。



日アフリカ・ビジネスウーマン交流プログラム（2024年3月）

横浜市のパートナー

（一社）YUSA（YOKOHAMA URBAN SOLUTION ALLIANCE）

YUSA は、新興国における都市課題の解決を通して、公民連携による国際協力の推進と、市内企業のビジネスチャンス創出を目的とした組織です。



YUSA
ホームページ

「ABE イニシアティブ」の活用サポート

将来的なアフリカ進出の水先案内人として期待される人材とのネットワークづくりのため、市内企業による「ABE イニシアティブ（※）」留学生のインターンシップ受入を積極的にサポートしています。



日之出産業株式会社におけるインターンシップ（2019年8月）

※アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABE イニシアティブ）：日本政府と JICA による、アフリカの若者を対象とした、日本の大学での修士号取得と日本企業でのインターンシップ・人的交流の機会を提供する産業人材育成プログラム

アフリカでの市内企業の活動支援

横浜市が持つ都市間連携を含むアフリカとの協力関係を活かし、市内企業の活動を支援してします。これまで、企業とともに国際局職員が現地へ赴き、横浜市とアフリカの良好な関係性の PR や、ビジネス関係者とのネットワーキングを行いました。



コートジボワールでのセミナーの様子（2019年7月）

（公財）横浜企業経営支援財団（IDEC 横浜）

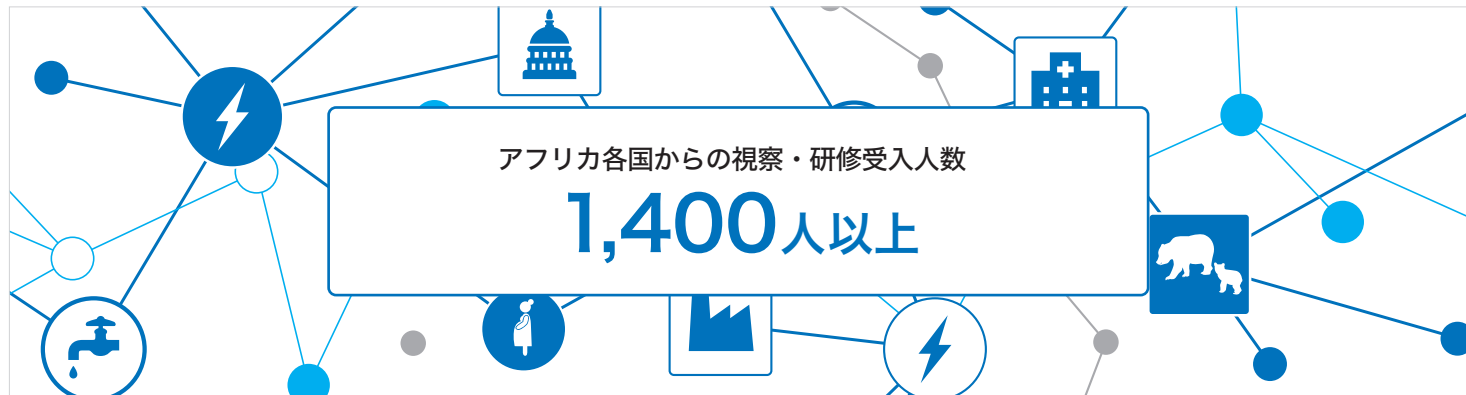
IDEC 横浜は、海外ビジネスに関心のある市内企業を対象に、アフリカを含む海外ビジネスに関する相談対応を行っています。また、セミナー開催等の情報提供や、海外展示会出展の支援に助成金制度を設けています。



IDEC
ホームページ

国際協力の一層の推進

1859 年の開港以来めざましい発展を遂げた横浜だからこそ、今急速に発展を続けるアフリカの都市と共有できる技術やノウハウがあります。横浜市は、独立行政法人国際協力機構（JICA）や政府、国際機関、市内企業と連携し、水道、廃棄物処理、港湾、野生動物保護、保健衛生、まちづくり等様々な分野でアフリカの発展に寄与しています。これまで、アフリカ各国から 1,400 人以上が視察や研修に訪れました。



水道

日本で初めて「近代水道」を開始した横浜市では、1976 年にケニアへ職員を派遣して以来、アフリカへの水道分野の協力を続けています。2024 年3月末までにアフリカ47か国から延べ729人の研修員を受け入れ、横浜市からも延べ90人の職員をアフリカ13か国に派遣しています。特にマラウイには継続的に職員を派遣し、JICA 技術協力プロジェクトにも協力してきました。



横浜でのアフリカ各国の技術者研修（2023年10月）



マラウイでの活動（2024年7月）

廃棄物管理

横浜市では、2001 年度以降の 10 年で約 43% のごみを減量した経験をもとに、環境省・JICA・アフリカ各国等と共同で設立した「アフリカのきれいな街プラットフォーム（ACCP）」を通じて、アフリカ各国・都市の関係を対象に、廃棄物管理に関する研修を実施しています。



収集事務所の視察（2023年7月）



ごみ収集作業の説明（2023年12月）

港湾

横浜市では、毎年アフリカ各国から研修員等を受け入れています。講義では、横浜港の港湾整備開発状況・港湾計画・物流施策・カーボンニュートラルポート形成の取組等について紹介し、視察ではコンテナターミナルやクルーズターミナルを案内しています。2023 年度は、アフリカから 13 か国 29 名の視察・研修生を受け入れました。



ナミビアからの研修受入れ（2023年9月）



大さん橋での研修受入れ（2023年6月）